

# 2016.7改定 公式バンパープール競技規則

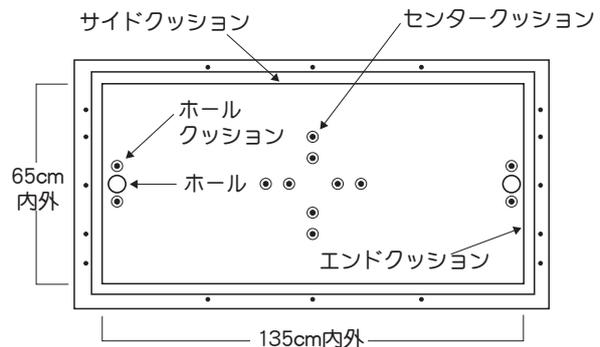
## 第1条 競技場と用具

### 第1項 場所

1. テーブルを置いて、テーブルの外側2mの範囲でプレーイングゾーンが設けられるところであれば、屋内、屋外を問わない。
2. テーブルを置く場所は水平とする。

### 第2項 コート

1. テーブルの枠で四方を囲まれた内側をコートと呼ぶ。
2. コートは長方形で内径縦135cm、横65cm、高さ70cm内外を標準とする。
3. コート中央に8個のセンタークッションと両サイドに1個ずつホールを設け、さらに各ホールの両側に2個ずつホールクッションを設ける。
4. コート表面は平面とし、ラシヤ張りとする。
5. ホールのある両サイドの横枠（短い方）をエンドクッションと呼び、縦枠（長い方）をサイドクッションと呼ぶ。



### 第3項 ボール

1. ボールは赤色5個、白色5個のバンパープール専用ボールとする。そのうち赤白1個ずつのボールをスポットボールとし、赤色のボールには白色で、白色のボールには赤色でマークを付ける。
2. ボールは、外面が平滑均一の球体とする。

### 第4項 キュー

1. キューは、長さ110cm以上、140cm以下のバンパープール専用キューを使用する。

## 第2条 競技の方法

### 第1項 競技者

1. シングルスの場合は1人对1人で競技する。
2. ダブルスの場合は2人对2人のチーム対抗で競技する。  
ダブルスではチームメンバー2人のうち、最初にショットするプレイヤーをファーストプレイヤーと呼び、次にショットするプレイヤーをセカンドプレイヤーと呼ぶ。

### 第2項 ショット

1. ショットとはキューの先端でボールを突くことをいう。

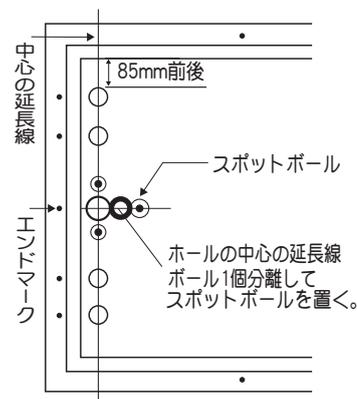
### 第3項 競技の方法

1. プレイヤーはサイドクッションの一方に並んで立ち、プレー前の挨拶をする。
2. ジャンケンをして、勝った方がコートを選択する。
3. プレイヤーがそれぞれ持ちボールをコートの所定の位置に配置する。

\* ボールの配置について

ホールクッションとホールの中心を結んだ延長線上に等間隔に置く。

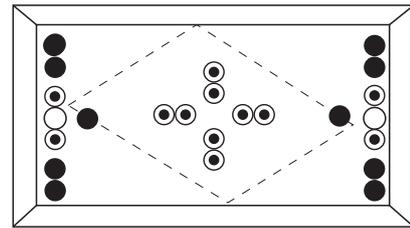
4. 赤色5個、白色5個の合計10個のボールがコート上の所定の位置に配置されているかどうかを審判員および相手プレイヤーが確認する。
5. 準備が整った後、次の手順でプレーを始める。
  - (1) 両者(ダブルスの場合ファーストプレイヤー)が、配置したボールのエンドクッション側のテーブルサイドに位置する。



- (2) 審判員の「レディー…………プレー」(ヨーイ はじめ) の宣告に合わせて両者が同時に自分のスポットボールをショットする。このショットではスポットボールを必ずプレイヤーから見て右側のサイドクッションに当ててから、相手側にある自分のホール(以下自ホール)をねらうものとする。

なお、同時にショットするとは、相手のボールが静止するまでにショットし終えることをいう。

※スポットボールがセンタークッションに当たってから右側のサイドクッションに当たった場合も、サイドクッションに当たったものとする。

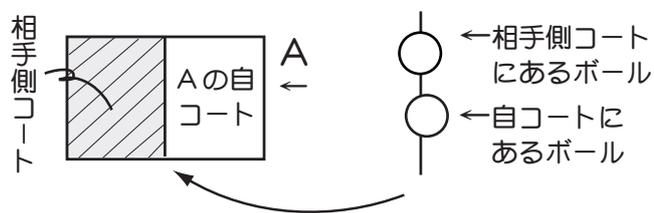


- 6** ショットした自分のスポットボールと自ホールとの距離を比較して次のプレーに移る。プレーはコート周りのどの位置からでもできる。
- (1) 自分のスポットボールを自ホールにより近づけた方が、先にスポットボールをショットする（ダブルスの場合はセカンドプレーヤーに交代）。  
※スポットボールとホールの距離とは、ホールに面したボールの側面にコートと直角になるようにホールの中心に向かって定規を当てた場合のホールエッジまでの最短距離をいう。
  - (2) ショットしたスポットボールが自ホールに入った場合（以下「ホールイン」という）は、そのプレーヤー（ダブルスの場合ファーストプレーヤー）が引き続き、別の自分のボールをショットすることができる。このときは自分のボールならどのボールでもショットできる。またサイドクッションに当てずにどの方向にでもショットすることができる。相手のボールが自分の側にある相手のホール(以下相手ホール)に入りにくいように配置することができる。
  - (3) ショットしたスポットボールと自ホールとの距離が両者とも同じ場合は、そのスポットボールが静止した位置から再度同時にショットし、スポットボールと自ホールとの距離を比較して短い方がプレー権を得る。  
※両者同時にショットをするのに支障をきたす場合は、赤ボール側が先にショットする。
  - (4) 再度ショットしたスポットボールがホールインした場合は、第2条第3項6の(2)に準ずる。  
両者ともスポットボールをショットしてサイドクッションに当たらなかった場合は、スポットボールを元に戻し、リプレーする。  
ショットしたスポットボールが両者ともホールインした場合は、引き続き審判員の合図によって、両者同時に左端の自球をプレーヤーから見て右側のサイドクッションに当てショットする（ダブルスの場合、ファーストプレーヤーが引き続きショット）。第2打目もホールインした場合は、第3打目も引き続き左サイドの自球をショットする。両者とも同時にホールインした場合は、第4打目からは右端の自球をプレー

ヤーから見て左側のサイドクッションに当てるようにショットする。プレーヤーが第2ショットの突こうとする球が分からなかったり、間違っていた場合、審判はこれを指導する。

両者ホールインした後のショットが両者とも入らなかった場合は、次のショットはショットした球が自ホールに近い方が先にショットできる。その時、自球であればどのボールをショットしてもよい。

- (5) スポットボールの第1打で、自分のボールがサイドクッションに当たらなかった場合、次のショットは相手が先に行うものとする。また、このときサイドクッションに当たらなかったスポットボールは、相手のショットが終了した後、ゲーム開始時の位置に戻し、打ち直しとする。もし、打ち直しのスポットボールのショットに支障をきたすボールが自コートにある場合は、審判員にアピールし、一時的に取り除くことができる。また、サイドクッションに当たらなかったスポットボールの最初のショットで移動したボールは、もとの位置に戻す。
- (6) スポットボールの第1打で、相手のスポットボールにキューや手、衣服を当てた場合は、当てられたスポットボールはホールインしたものと見なし、相手のプレーが続行される。反則したプレーヤーのスポットボールはプレー権が移行するまで審判が保持し、最初にセットした位置に戻し、ショットする。
- (7) 両者とも最初にショットするスポットボールがホールインしない限り、別の自分のボールをショットすることはできない。
- (8) スポットボールを妨害することはできないが、スポットボールで他のボールを妨害することはできる。もし、スポットボールのショットに直接的に支障をきたすボールがあるときは、審判員にアピールし、一時的にボールを取り除くことができる。ただし、ボールを取り除くことができるのは、スポットボールが相手側コートにある場合に限る。



- (9) スポットボールの第1打で、スポットボール同士が故意でなくぶつかった場合は、リプレーとなる。
- 7.** 次の場合、ショットした側の得点となり、同一プレーヤーがホールインさせた権利として、さらに1回ショットすることができる。
- (1) 自分のボール（スポットボールを含む）がホールインした場合。
  - (2) “ホールとホールクッション間”、“ホールとエンドクッション間”に球が止まったとき、審判の判断でホールインしたと見なす。

8. 次の場合は、相手のスポットボールがホールインしたものとみなし、移動したボールはショット前の位置に戻す。プレー権は相手に移行する。

(1) 相手のスポットボールに自分のボールを当てたとき。

9. 次の場合は、相手の得点となり、プレー権は相手に移行する。

(1) 自分のボールをショットして、相手のボールに当たり、相手のボールが相手ホールに入ったとき。つまり相手のボールがホールインした状態のとき。

ただし、相手のボールだけでなくショットした自分のボールも自ホールに入った場合は、両者共にホールインが認められ、ショットした側が引き続き次のショットを行う権利を持つ。ただし、ホールインしたボールが両者ともラストボールの場合は、先に入った方が勝ちとなる。同時にホールインした場合は再試合とする。

(2) 自分のボールをショットして相手のボールに当たり、相手のボールが相手側にあるホールに入ったとき。

ただし、ショットしたボールが続いてホールインした場合は、ショットした側のホールインも認められ、プレー権は移行せずに、引き続きショットできる。

10. 次の場合は、移動したボールはそのまま、ホールインしたボールはショットしたプレイヤーが自コートのホールクッションとホールの中心を結んだ延長線上の任意の位置に置く。任意の位置に置いたボールで、センタークッションを通して直接ホールはねらえない。

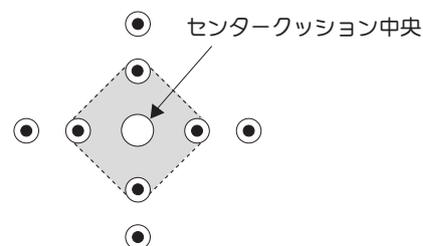
相手は通常のショットに加えてペナルティの1回のショットができる。

(複数のボールがホールインした場合も、ペナルティのショットは1回)。

また、任意の位置に置かれたボールでセンタークッションを通して直接ホールをねらってショットした場合は、ショットしたボールはもとの位置に戻し、プレー権は相手に移行する。

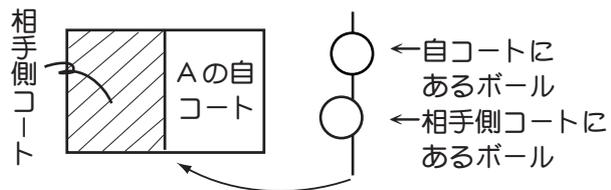
(1) 自分のボールをショットして、相手ホールに入ったとき。

11. 次の場合は、コース上の妨害ボールをセンタークッション圏内中央に置き、プレー権は相手に移行し、相手は通常のショットに加えてペナルティの1回のショットができる。



- (1) 相手がラストボールになったとき、自コートにある相手側のボールとホールを結んだコース上に連続して4回妨害するボールを置いた場合。審判はラストボールの妨害の1回目からすべての妨害球に対してプレイヤーにその回数を告げなければならない。

※妨害するボールとは、ホールインしようとする相手のボールとホールの中心を結ぶ直線コース上(ボールの幅)に一部でもかかっているボールを言う。ただし、相手のボールが自コート内にある場合に限る。なお、相手のボールが自コート内にある場合とは、相手ボールの中心が、センタークッション圈内中心とサイドクッション側にある2つのホールクッション中心を結んだ直線上から自コート側にある場合をいう。



- (2) 妨害ボールをそのままにして、妨害ボール以外の残りボールをプレーした場合も、妨害の回数に数える。

ただし、ホールインが継続している間は1回のプレーが継続しているものとする。

**12.** コート外に出たボールとそのショットで移動したボールは次のように処置をする。

- (1) コート外に出たボールがショットした側のボールの場合は、飛び出したボールはペナルティーとしてセンタークッション圈内中央に置く。

- (2) コート外に出たボールが相手のボールの場合は、次プレイヤーが自コートのホールクッションとホールの中心を結んだ延長線上の任意の位置に置く。

- (3) ショットして移動したボールはそのままとし、プレー権は相手に移行する。相手は通常のショットに加えてペナルティーの1回のショットができる。

ただし、任意の位置に置いたボールでセンタークッションを通して直接ホールはねらえない。もし、任意の位置に置かれたボールでセンタークッションを通して直接ホールをねらってショットした場合は、ショットしたボールはもとの位置に戻し、プレー権は相手に移行する。

- (4) 移動したボールがホールに入った場合は、第2条第3項9、10に準ずる。

**13.** センタークッション圏内に同一プレイヤーの複数のペナルティーボールがある場合は、1個のボールを残して他のボールは審判員が一時これを保持する。審判員はセンタークッション圏内のペナルティーボールが

ショットされ、センタークッション圏外に出たことを確認した後、次プレーヤーのショットまでの間に保持しているボールの1つをセンタークッション圏内に置く。

複数のプレーヤーのペナルティーボールがセンタークッション圏内に置かれる場合は、審判員は後で打つプレーヤーのペナルティーボールを一時保持する。ただし、センタークッション圏内に置かれた複数プレーヤーのボールのショットの優先権は、ショットの順番時に圏内の自分のボールをショットしようとするプレーヤーにある。

**14.** 次の場合は、移動したボールはショット前の位置に戻す。プレー権は相手に移行する。

(1) プレー中に、他のボールにキューや手、衣服が触れた場合。

(2) ボール2個が接触している(接触球)とき、ショットした衝撃で2球を同時に移動させた場合。移動したボールは、2球とも移動前の位置に戻す。ただし、接触球か否かは、プレーヤーのアピールに基づき、審判員が判定する。

※もし、2球同時に移動させる以外のプレーが不可能と判断した場合は、プレーの迅速化を図るために自ショットのキャンセルを申し出ることができる。

(3) 相手のボールをショットした場合。

(4) ショットボールを2度突き(1回のショットで2度同じボールを突く)した場合。

※2度突きはビリヤードでいうリクに該当する反則で、結果としてショットされた相手球を追って自球が同じスピードで、もしくは一緒に進んでいく反則をいう。

(5) プレーの順番を間違えてショットした場合。

**15.** 次の場合はホールインは認められるが、ホールインの権利としてのショットは認められない。

(1) プレー権が相手に移行した後にホールインした場合。

※プレー権が相手に移行した後にホールインした場合とは、相手がショットした後にホールインすることをいう。

(2) ホールイン後に反則したとき。

**16.** 次の場合は、ゲーム終了となり、5対0で相手の勝利となる。

(1) 移動中のショットボールを故意に触った場合。

(2) 故意に手でホールインさせた場合。

(3) その他、著しくマナーを傷つけた場合。

17. 次の項目は禁止事項である。これを行おうとした場合は、審判はこれを差し止める。もし、これらの反則が生じた場合には、移動したボールはショット前の位置に戻す。プレー権は相手に移行する。ただし、禁止事項のdとgの違反については、悪質なマナー違反として相手プレイヤーは通常のショットに加えてペナルティーの1回のショットができる。
- a. チョークなどで目印を置いたり、書いたりする事
  - b. 定規などで距離や角度を計測する事
  - c. 他人の助言を聞く事
  - d. 台の上に腰を掛けるなど、過大な体重を乗せる事
  - e. 手前の障害物をジャンプで飛び越し、ホールインを狙う事
  - f. マッセ(キューを逆手に持ってプレー)をする事
  - g. 相手のプレイヤーに混乱をきたすような言動をする事
18. テストボールはスポットボールの1球のみで、それぞれのコートで1回。コート交代で1回。計2球とする。
19. プレイヤーは、審判の判定に疑問がある場合は、アピールすることができる。審判は、必要に応じて審判長と協議しなければならない。ただし、次のショットに移行後、あるいはゲーム終了後のアピールは一切受け付けない。
20. 特に大会において規定がない場合、マイキュー、手袋の着用は可とする。

#### 第4項

#### 競技の終了と勝敗の決定

1. 以上の規定に従ってプレーを進め、どちらかが先に自分の5個のボールをすべてホールインした時点で競技は終了する。両者が同時に5個のボールをホールインした場合は再試合とする。
2. 自分のボール5個を早くホールインさせた方が勝ちとなる。  
ただし勝敗とは別にスコアカードにはホールインの数も記入する。
3. 試合は3ゲームマッチとし、2ゲーム先取で勝ちとする。  
(ただし、試合の形式は大会の主旨に応じて随時変更可能とする)

<2016年8月1日施行>



日本バンパーボール協会

〒537-0012 大阪市東成区大今里3-12-23 NPO法人フレンドリー情報センター内  
TEL.06-6971-9190 FAX.06-6981-7470

コピー不可